

放射線反応化学

現在のスタッフ：中島 覚（教授）、宮下 直（特任助教）

Home Page : <http://home.hiroshima-u.ac.jp/radichem/>

放射線反応化学研究グループは、平成 19 年 4 月に中島 覚が自然科学研究支援開発センターの教授に昇任して新たなスタートを切った。アイソトープ総合部門のメンバーとも協力しながら教育研究にあたってきたが、平成 25 年 6 月には宮下直が特任助教として着任し、教育研究体制が充実してきた。

当初は少ないメンバーで集積型錯体のスピントロスオーバー挙動の研究と環境放射能研究を行っていた。その後少しずつメンバーも増え、ルテニウム錯体やオスミウム錯体の化学、DFT 計算を使った研究、ランタノイド、アクチノイドの化学、さらには超重元素の化学を理解するための基礎研究にも手を広げている。また、関係学会とも協力しながら汚染土壌からの放射性セシウムの除染に関する研究も進めている。

学生は積極的に学会発表を行い、日本放射化学会年会、アイソトープ・放射線研究発表会、Nano Bio Info Chemistry Symposium などそれぞれ複数回優秀賞等を受賞している。また、自ら渡航費を獲得し、本年シンガポールで開催された International Conference on Coordination Chemistry でも発表を行った。さらに教授は、2008 日本放射化学会年会（霞キャンパス）、日本放射線安全管理学会第 9 回学術大会（平成 22 年、東広島キャンパス）、平成 24 年度安全取扱部会年次大会（松山市）を実行委員長として開催した。

平成 23 年度、広島大学に「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」が設置された。このプログラムは文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」事業に採択されたものである。これは、学内の複数の研究科を串刺的に横断したプログラムであり、私たちのグループも貢献している。このプログラムの学生として社会人 2 名、ベトナムからの学生 1 名の指導を行っている。学生同士はお互いに良い刺激

を受けている。このプログラムでは外人や社会人も参加しているので、化学専攻には英語での講義や東京オフィスでも受講可能な講義等でお世話になり、各教員にこの場を借りて感謝したい。この 7 月には 1 期生が博士論文研究基礎力審査に無事合格し、10 月から 5 年間一貫コースの 3 年生になった。

研究室セミナーでは、ベトナム人が参加しているので、原則英語で発表し、最初の質疑応答は英語で行っている。ただ、それだけでは議論が深まらないので、その後は日本語でのディスカッションになる。また、学生は自主ゼミを行って切磋琢磨し、先輩は後輩の研究指導も行い、よい雰囲気で行っている。

教授は自然科学研究支援開発センターの仕事、リーディングプログラムの仕事、学外の仕事等で不在なことも多いが、学生が自分たちでよく考えて研究を進めてくれることに感謝する。研究に集中しながら、大学や社会の動きも敏感に感じ取り、社会で役に立つ人材として巣立ってほしい。

最後に、卒業生・修了生の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。



本年 4 月のアイソトープ総合部門メンバーとの花見